

## タブレット端末がフランス語教育に与える可能性

### Utilisation des tablettes numériques pour l'enseignement du français

小松 祐子

KOMATSU Sachiko

Université de Tsukuba

komatsu.sachiko.gu.tsukuba.ac.jp

タブレット端末<sup>1</sup>は、きわめて高機能かつ操作性にすぐれるとともに、安価であるという魅力を持ち、電子書籍の媒体としてはもとより、インターネットによる情報検索や、メール、手帳スケジューリング管理、映像・音楽の視聴、ゲーム、学習など様々な用途に用いられている。現在爆発的な普及を続ける<sup>2</sup>このようなタブレット端末が、教育現場に与える影響にも注目が集まっている。授業内に使用するために数十台単位でタブレット端末機器を購入する教育機関の例が増えており<sup>3</sup>、今後はパソコン以上に教育現場へ普及することも予想される。

そこで本稿では、これらのタブレット端末がフランス語教育の分野にどのような可能性を与えてくれるかを検討したい。タブレット端末の教育現場への普及の見通しを確認することからはじめ、主に iPad についてフランス語教育・学習のための具体的な活用例やリソースを紹介し、タブレット端末を用いたフランス語教育のあり方を考える。

#### 1. タブレット端末の教育現場への普及

日本では、2009年12月、当時の原口総務大臣によるいわゆる「原口ビジョン」に「2015年までにデジタル教科書を全ての小中学校全生徒に配備する」と示されたことに基づき、現在その準備が着々と進められている。2010年12月にはデジタル教科書教材協議会が、「DiTTアクションプラン (DiTT: Digital Textbook and Teaching)」

<sup>1</sup> タブレットの OS としては、iOS, Android, Windows の主に3種類が普及し、それぞれにさまざまな端末が発売されている。Apple 社の iPad (iOS) が 2010 年の発売以来、圧倒的なシェアを誇っていたが、最近では Nexus, GALAXY などの Android 端末が追い上げている。また 2012 年後半からは Windows8 タブレットも登場した。2013 年第 1 上半期のシェアは iPad が 48.2%、Android が 43.4%、Windows が 7.4% (Strategy Analytics の調査による)。

<sup>2</sup> 2012 年のタブレット国内集荷数は、前年比 91.3% 増の 462 万台となった (マイナビニュース、2013 年 3 月 28 日)。2012 年から 5 年間で世界出荷台数は 1 億 2830 万台から 3 億 5230 万台へとおよそ 3 倍になることが予想されている (PC World、2013 年 3 月 28 日)。

<sup>3</sup> 筑波大学外国語センターでも 2013 年 4 月にタブレット端末 40 台を授業使用用として購入したところである。

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2013

を発表し、2015年度までに、① 全小中学生に情報端末を配布、② 全教科のデジタル教材を開発、③ 全授業のうち約3割での利用を目指すとした。

タブレット端末や電子黒板の教育現場への導入はすでにはじまっており、学校教育用に端末を大量購入する自治体の例も見られる<sup>4</sup>、電子教科書の販売も開始された<sup>5</sup>。

学校教育実践例も次々に報告されている。たとえば、「フューチャースクールで最先端のICT教育を実践した岡山・哲西中学<sup>6</sup>」の例では、iPadと電子教材を使用し、授業の最初数分間を用いて英語のミニドリルを行うことにより、授業への生徒の集中を高める試みが実施されている。各自の端末上で一題解くごとに採点が実行され、生徒は即座に自分の習得状況を意識することができるという。また外国語ではなく体育での活用例であるが、iPadのカメラ機能を活用し、実技フォームを生徒同士が録画し合い、批評会を行う例も紹介されている。

日本では大学で学ばれることが多いフランス語であるが、私たち教員は今後、初等中等教育でこのような教育を受けた若者を相手にするのだということを認識する必要がある。また今後は大学での導入例も急速に増えることが予想される。フランス語教育での有効な活用方法を考えていくことが重要となるだろう。

## 2. フランス語教育・学習で使うiPad

### 2.1. 基本操作と機能（特殊文字入力、音声認識、音声合成、周辺機器接続、データのやり取り）

タブレット端末では、パネルをタップすることにより基本操作を直感的に行うことができる点が高く評価されている。フランス語などの特殊文字の入力も問題なく行うことができる（画面キーボード上で、特殊文字をつけたい文字、たとえばeを長押しするとé, è, ê, ëなどが現れ選択できる）。「設定」からフランス語キーボードをインストールしておくこともできる。

外国語関係者にとって興味深いのは、音声合成や音声認識の技術だろう。音声認識は「設定」→「Siri」をオンにすることで利用できる。メモアプリを開き、画面をタップするとキーボード上にマイクボタンが表示されるので、それをタップして話しかけると、話した内容を即座に解析し、メモアプリ上に文字表示してくれる（日本語キーボードを使用中なら日本語、フランス語キーボードではフランス語として話した内容を解析する）。かなりの精度で音声入力を行うことができる。Siri (Speech Interpretation and Recognition Interface : スピーチ解析・認識インターフェイス) は単なる音声認識以上のアシスト機能、会話インターフェイス機能をもつ。iPadのスタートボタンを2秒以上押すと、Siriマイクが現れ、「Que puis-je faire pour vous ?」と尋ねてくる<sup>7</sup>。マイクをタップし口頭指示を与えると、内容を解析し、返答または必

<sup>4</sup> 「東京都荒川区が小中学校にタブレット端末1万1000台を導入、一人一台の購入は全国でも初」、朝日新聞、2013年3月7日。

<sup>5</sup> 「東京書籍がデジタル教科書の販売を開始」、朝日新聞、2013年3月27日。

<sup>6</sup> 「事例で学ぶiPhone/iPad活用術」

<http://news.mynavi.jp/series/iphoneipadkatsuyo/114/index.html>

<sup>7</sup> Siri設定を仏語にしておくとは仏語、日本語にしておくとは日本語で尋ねてくる。

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2013

要な操作を行う。たとえば「Quel temps fait-il à Paris?」と尋ねると即座にパリの天気予報を示してくれる、「Aller de Paris à Marseille.」と言うとパリからマルセイユの道程を表示してくれる、など。学生にフランス語で試してもらおうと、発音チェックにもなり、Siriとのやり取りで教室内が盛り上がる。ネイティブALTに劣らぬ活躍をしてくれるのである。

一方、音声合成は、「設定」→「Voice over」をオンにすることで利用できる。フランス語電子書籍の本文を読み上げさせると、その音声クオリティの高さに驚かされる。(ただしこの機能は本体にかなりの負担をかける模様で、反応が遅くなる。早いタップを繰り返すとフリーズの恐れがあるので注意。)

プロジェクタとの連携には、専用アダプタ (Lightning-VGAアダプタ) の購入が必要である。スピーカー端子は通常のもので問題ない。これらによりさまざまな学習素材を手軽に提示することが可能となる。プロジェクタでiPad画面 (Web、文書、静止画、動画) をスクリーン表示したり音声を再生したりして教室活動に利用できる。ちなみにYouTubeの動画をオフラインで提示できるアプリ (TubePlayer) もあり、合わせて使うと便利である。

PCなどとのデータ共有にはクラウドサービスを用いるとよい。たとえばDropboxを用いてデータをネット上に保存しておけば、いつでもどこでも (PCからでもiPadからでも) アクセスし引き出せる。iPadで使えるUSBメモリーも販売されている (が高価であり、購入には及ばないだろう)。クラウドサービス上にクラス用アカウントを作成し共有スペースを準備して、そこに学生にファイルをアップさせる、あるいはそこから教材をダウンロードさせるなど、便利に用いることができる。つまり手軽にCALL教室のファイル転送のような機能が得られるのである。

GoodReader for iPad (有料) は、パソコン内にあるファイルをWiFiで同期してiPadに保存し、閲覧できるアプリである (オフライン表示もできる)。PDFファイルやppt資料などを持ち歩くのに便利で、iPad上でPDF文書へ書き込みができるため、下線、矢印、ハイライトなどを書き込みながらプロジェクタで文書を提示できる。

### 2.2. 板書代わりにiPadを用いる

iPadをプロジェクタに接続して、板書代わりに用いると便利である。メモ帳アプリを用い、iPadのタッチパネル上で自由に文字などを書き込み (スタイラスペンで入力)、投影することができる。このためのお勧めのアプリはNote Anytimeである。ページ作成、管理がわかりやすく使いやすい。画像の取り込みができるため、たとえばiPadのカメラで学生のノートを撮影し取り込み、その上に添削していく様子をプロジェクタで見せることができる。上に紹介した音声による入力もできる。またこのアプリの手書き入力変換 (追加アドオン600円) は評価が高い。スタイラスペンで入力した手書き文字を判読して活字に直してくれるというものである。さらに、このようなアプリを使って板書を行う場合、記録がすべて自動保存される点も便利である (後で見直してスペルミスに気がついたりするのだが)。

Show Me Interactive Whiteboardは、iPad上に板書しながら行う授業の音声を録音し、メモ (板書) と同期してファイルを作成してくれるアプリである。学生の復習用に作成しておくとも便利だろう。ただし、作成したファイルはオンラインで保存され、公開されるので注意が必要である。

### 2.3. 電子辞書

タブレットに電子辞書を入れておくと大変便利である。プチ・ロワイヤル仏和辞典・和仏辞典、およびクラウン仏和辞典・コンサイス和仏辞典がそれぞれ6000円前後で購入できる。仏和辞典ではLittréが無料で提供されている（iPhoneアプリであるがiPad上でも使用可）。英仏・仏英辞典に至ってはさまざまなフリーアプリが存在する。なかでもカナダ政府（二言語主義の国であるため英仏・仏英辞書の開発に熱心）が提供する無料の辞書ourlanguages.qc.caを挙げておきたい。

これらの辞書は、携帯性に優れるだけでなく、辞書画面をプロジェクタで提示するという、通常の電子辞書ではできない使い方ができるところに利点がある。音声つきのため、単語や例文の発音を学生に聞かせることもできる。

### 2.4. 電子書籍、Podcastなどのリソースの活用

iBooksやBibliothèque des livresから電子書籍をダウンロードして授業に活用することもできるだろう。*Fables de la Fontaine*などの名作も無料で多数提供されている。これらの電子書籍では、画面上の単語をプレスすることにより辞書を表示させる、ブックマークやハイライトを入れる、Voice over（音声合成）による読み上げを行うなどが可能である。画面をキャプチャーして画像ファイルにしてPCへクラウドでデータ転送し、プリントアウトして学生に渡す、といったことも考えられる。

音声リソースとしては、Podcastでフランス語放送（RFIなど）やフランス語学習講座が多数提供されている。日本のものでは、「Chocolat（日仏語Podcast）」「大阪府立大学初級フランス語講座：ポッドキャストと行くフランス旅行」「國枝&パトリスのフランス語TV」などが挙げられる。

iTunes Uでは世界各地の（多くはアメリカの）大学のオンラインコース（教材）の視聴とダウンロードが可能である。検索すると多数のフランス語コースを見つけることができる。

### 2.5. フランス語学習アプリの活用

フランス語学習用に開発提供されたアプリも多数存在する。たとえばTV5 Mondeでは7 jours sur la planète（時事ニュースをもとにWebサイト上で展開している学習教材）の練習問題をiPadでも提供している（ただしiPadアプリでは単語学習に限られる）。他にも、音声を組み込み、フラッシュカードで語彙や表現を覚えるタイプのアプリが多く見られる（Nemoなど）。日本で開発提供されているものとしては「フランス語会話マスター」「『話してみようフランス語Parlons français』単語学習」（大久保政憲著、朝日出版社によるフランス語教科書の副教材）がある。

Webで人気のQuizlet (<http://quizlet.com>) は、単語学習カードを簡単に作成・公開・利用できるサービスであるが（合成音声・画像の組み込みも可）、Quizletで公開されている単語カードはiPadでもダウンロードして手軽に使用できる。

これらのアプリの学習機能は、いずれも単語や表現の提示（音声付き）や暗記にとどまっており、学習活動のバラエティや発展性に乏しいことは否めない。

### 2.5. 子供向けフランス語リソースの活用

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2013

フランス語絵本や子供向け学習アプリをフランス語の学習材料として活用することも考えられる。Histoires enchantées, Histoires pour enfants curieux, J'aime lireなどの電子絵本は、短く平易な物語をフランス語で読み、聞く機会を学生に提供するために利用できる。表現力の高い絵や感情のこもった音読によって意味内容を推測しやすく外国語学習の助けとなるだろう。クラス内でグループ視聴し、内容をまとめて発表させるといった活用が考えられる。Le livre interactif et sonore du conte traditionnelやMiss Spider. Frなどは、絵を動かしたり、塗り絵をしたりといった、インタラクティブなお遊び機能がついた電子絵本である。

子供向け学習アプリとしては、単語やつづり方を学ぶものが多い。たとえばLingu pinguin Fr-Jpは絵をタップすると日仏両言語の単語音声流れる単語学習アプリである。J'apprends à lireはゲームを通じてABCと単語（つづり）が学べる。My first Frenchではイラストと音声で単語や表現を学び、ABCソングを聞くことができる。

### 3. iPadを活用したフランス語教育の展望

以上、フランス語の教育や学習に活用できるさまざまな機能やリソースのあることが確認された<sup>8</sup>。しかし、これらはいずれもすでにインターネットに接続したPCで可能なものばかりである。学習のための機能の多様性、提供されているリソースの豊富さとともに、PCには遠く及ばないことは明らかである。もちろん、携帯性・操作性にすぐれるタブレット端末によって、学習が身近になることは確かだろう。だが、それだけで教育・学習の質を変えることとなるかどうかは疑問である。『iPadが教育を変える』、『タブレット革命』（第6章教育について）など、扇動的タイトルの書籍が次々に刊行されているが、その内容を吟味すると、「便利になった」というレベルの話に終始している場合が多いのである。CALL教室がそれだけでは教育の質を変えるには至らなかったのと同様、iPadも所詮道具にすぎない。

今後はこれらの端末の高い携帯性・操作性を生かし、教室でどのような授業活動を展開できるかを検討することが重要となるだろう。ドリル的なものを個人学習で行っているだけでは、「教育を変える」とは言えないのではないか。便利な道具を使って、いかに創造的な学習活動、協同学習活動を生み出していくかは、教師の創意工夫、力量にかかっているのである。

タブレット端末では、固定PCにない、携帯性・操作性の高さを利用した活動に意義が見出されるだろう。たとえばグループでフランス語の会話スケッチを作成し、演じてビデオ撮影し、発表する（その場で生で演じてもよいが、ビデオ撮影することにより、既述の体育授業例のように、自身の演技を確認できるという利点がある）。ビデオカメラで撮影し、その後PCに接続して、データを取り込んで…といった手間と複雑な操作がiPadでは不要である。またテーマを決めてグループでKeynote（Apple社のプレゼンソフト）を使った資料の作成、発表といった活動もiPadを使って手軽に行うことができる。大きなPCを囲んで行うよりもグループ間のインタラクションが促進され、タップだけで画面を作成するという操作の簡便性により、学習者の注意を学習内容のフランス語に集中させることができるといった利点が考えられる。このような活動例の蓄積が今後重要となるだろう。

<sup>8</sup> 本文中紹介したアプリで特に記載のないものは無料または一部無料である。